

アナログ時計から時刻を読み取る指導 ～時間の確認シートを使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2 4 1 3
学習グループの実態	- 小学部 4 学年（2 名） - 学習の始まりや休憩の終わりを、時計を見て意識する様子は見られるが、時計の文字盤をみて、何時何分を読むことはできておらず、「長い針が 6 になったら、次の学習が始まる。」というように、時計を活用している段階である。		
単元(題材)名	「とけい（みじかいはり）」		
学習指導要領の内容	算数科／小学部 3 段階 C 測定 イ 時刻や時間に関わる数学的活動 (ア) ㊦ ㊦ (イ)		
単元(題材)の目標	知識及び技能 日常生活の中で時刻を読むことができる。 時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解することができる。 【Cイ(ア)㊦㊦】	思考力・判断力・表現力等 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現することができる。【Cイ(ア)㊦】	学びに向かう力・人間性等 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする。 【小学部 3 段階 C 目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数 8 時間 1 一日の生活と時刻の関係を知る。（1 時間） 2 時計の針（短針、長針）の動きと時刻の読み方（5 時間） （1）短針、長針の動き、役割を知る。 （2）短針、長針の読み方を知り、時刻を読む。 3 時刻を時計で表現する。（2 時間）		
指導の実際	- 朝の会の時間、給食の時間、寝る時間など、一日の生活場面を取り上げ、時計を提示して、教師が時刻を読む見本を示し、時計を見て時刻を読むことに興味をもつことができるようにした。 - 模擬時計を使って、短い針が 1 時から 2 時に移動するまでに長い針は 0 から 60 分（一周する）まで動くことを教師が提示し、児童それぞれが模擬時計を動かして、短い針、長い針の動きを確かめ、動きの違いを感じ取る活動を行った。 - 長針と短針の読み取り方を確認し、模擬時計やプリントを用いて時刻を読む練習を設定した。 - 短針の読み取りについて、短針の指す扇型の領域の小さい数字を読むことを、扇型の部分に色を付けて繰り返し学習を行ったが、針が近い数字の方を読んでしまう（例：1：55→2時55分と読む）児童に対して、時間の確認シートで振り返るようにした。 →シートを使ったところ、読み間違いがなくなり自信をもって読むことができるようになった。 - 長針の読み取りについて、小さな目盛りに 5 分刻みの数字（5、10、15…）を設けて読み取らせる段階、5 分刻みの数字がない時計を読み取らせる段階を設けた。 →5 分刻みの数字がないと読み間違えることが多いのが今後の課題である。		

